第14号
2016/7

PVかながわ ニュースレター

Topic

2019年から固定価格買取はなくなる！
～あなたはどうしますか？～

2009年、住宅用太陽光発電の余剰電力の固定価格買取制度が始まった。その適用期間10年があと3年で終了する。該当の発電所は全国でおよそ45万件・180万kWとされる。経産省/資源エネルギー庁のサイトは「買取期間が終了したあとの買取条件は、国による価格規制が終了しますので、発電事業者と電気事業者との合意により買取価格を決めていただくことになります」とあり、どうなるのか分からない。一般に2019年問題と言われている。わが家の¥48/kWh買い取りはその後はどうなるのだろう？

電気事業者の買い取り義務はなくなっても、せっかく発電したCO2ゼロの電力を無駄にしたくはない。今年度の固定価格買取は¥31/kWhであるが、聞くところによると、規制終了後は、電力卸売市場の¥11/kWh程度、いやそれ以下だという人もいる。今、電力会社への支払単価は¥24～27/kWhなので、10円ぐらいで売るのではしょうがない。そのうちパワコンも壊れ負担が生じるので思い切ってやめてしまうか？あなたはどうします？

安い単価でも、そのまま壊れるまで売電し続ける選択肢もある。再エネ電気を調達したい業者もいるので、電力自由化によって、少しでも高く買ってくれるところを探す手もある。いや、昼間の余剰電力は蓄電池に貯めて自家消費する方が得だとする考えもある。6月29日～7月1日にパシフィコ横浜で開催された「PV Japan」では蓄電池を加えたシステム展示をしているブースが多くみられた。蓄電池を入手して余剰電力や夜間電力を利用するシステムを組むこともできる。値段を聞くと6kWhリチウムイオン電池搭載でパワコンも含め、EVへの供給もできる機器が150数万円とか。あと3年で50万円ぐらいにならないかと思うのだが。

いずれにしても2019年11月以降は、これまでとは変わる。まだ少し時間があるので、いろいろな選択肢について考えてみてはどうだろうか？　（横谷　記）

世話人から

1）連絡事項

東工大ソーラーシステム見学会を9月前半に計画中です。詳細は追って連絡します。

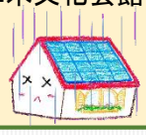
2）今後の予定

7月16日(土)10:00-13:00
「ソーラークッキング体験教室のつどい」
会場:生麦地区センター
(京急生麦駅下車徒歩5分)

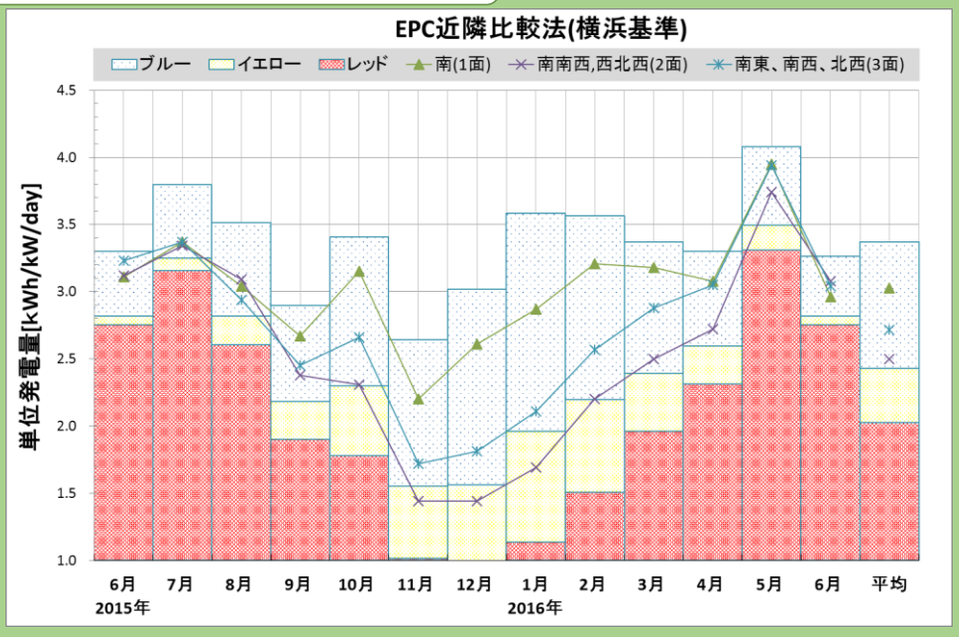
7月31日(日)13:30-
「PV-Net の総会]
会場:ハロー貸会議室神保町
新駿河台ビル10 F
(お茶の水駅下車徒歩7分)
(神保町下車徒歩3分)

8月7日(日) 10:00-15:30
「科学の祭典」
会場:県立青少年センター

8月21日(日) 12:30-16:30
「出前発電所 あつぎVol.1」
会場:厚木文化会館



今月の単位発電量！



東京の水がめは厳しく、一方、九州では大雨など、バランスの良い天気になって欲しいものです。因みに、神奈川の4湖合計貯水率は89%(6/30時点)です。気象庁によると6月の天気は、「前半の梅雨前線は沖縄・奄美付近から本州南岸の間で南北に変動し、後半の梅雨前線は、本州付近に停滞、特に西日本で活動が活発化し、19日～月末にかけて、西日本の広い範囲で大雨となり、各地で土砂災害や浸水害等が発生した。東日本の降水量は平年並だったが、5月からの少雨の状態が続くところもあり、取水制限がとられる河川もあった。北・東日本太平洋側の日照時間は平年並だった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドになる場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。